



ともまち条例制定後も十分な改善が見られない状況を分野ごとに整理し、意見集約した。
 今後は、引き続き要望書に落とし込む作業を行う。（一方的な要望にならないよう、関係機関と対話・調整）
 要望書の作成後は、当事者の最終確認および自立支援協議会の承認を経て、関係機関に提出する。

分野	意見の集約	要望内容
医療 	<p>1. 精神疾患があっても他科を円滑に受診できる体制について 怪我により整形外科への入院が必要と判断されたにもかかわらず、「入院先に精神科がない」という理由で入院を断られたことがある。また、風邪症状で耳鼻科を受診した際、精神科に通院していることを伝えたと、診察を受けられなかった。 精神疾患の有無にかかわらず、必要な医療を公平に受けられる体制を整えていただきたい。 精神科通院歴があることのみを理由に、他科での診療や入院が制限されることのないよう、医療機関間の連携強化や職員への理解を促進するとともに、安心して医療を受けられる環境づくりをお願いしたい。</p> <p>2. 発達障がい等、目に見えない障がいへの配慮について 発達障がいなど外見からは分かりにくい障がいがある場合、医師の説明を十分に理解できないことがある。 その際、怒られているように感じたり、理解してもらえていないと感じてしまうことがある。 可能な範囲で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門用語を避けた説明 ・ゆっくりとした口調での説明 ・重要な点を書面で示すなどの配慮をしていただくと、大変助かる。 	調整中
雇用 	<p>フォロー体制の充実および管理職と現場の連携強化について 現在、フォロー体制が十分とは言えず、同僚の理解が得られていないと感じる場面がある。支援や配慮が必要な状況においても、現場レベルでの共有や理解に差があり、結果として当事者が負担を感じることもある。 また、管理職が示す方針や配慮内容と、現場での実際の運用との間に解離があるように感じられることもある。この認識の差が、職場内の不安や孤立感につながっているのではないかと、</p> <p>ついては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援方針や配慮事項の明確な共有 ・定期的な情報共有や振り返りの場の設定 ・管理職と現場職員との認識のすり合わせ ・障がいや多様性に関する理解促進研修の実施 <p>など、実効性のあるフォロー体制の整備と、組織内の連携強化をお願いしたい。</p>	調整中

市内精神科医療機関へのヒアリング結果（概要）

1. 受診拒否について



クリニック（外来）において、精神障がいを理由に受診を拒否されたケースは、あまりない。
 入院先の医療機関に精神科がないことを理由として、精神科へ転院となるケースは数件ある。

2. 精神障がい者の受診に対する障壁について

「精神障がいのある患者は暴れる」「怒鳴る」などの偏見が一部に存在している可能性があり、そのことが他科での診療を行う際の心理的ハードルになっている可能性があるとの指摘があった。

3. 偏見解消に向けた取組の可能性

精神科医師から、精神障がいに関する基礎的な知識について講話を行うことで、医療従事者の理解が深まり、偏見の解消につながる可能性があるとの意見があった。

分野	意見の集約	要望内容
教育 	<p>就学先決定における身辺自立の判断基準について</p> <p>就学にあたり、市立小学校と特別支援学校のどちらに就学するのかを検討する際、身辺自立がどの程度できていれば通常の市立小学校、あるいは特別支援学校となるのか、その具体的な判断基準を明確に示していただきたい。</p> <p>現在の説明では判断基準が分かりにくく、保護者としてどのような力を目標にすればよいのか見通しが持ちにくい状況である。</p> <p>例えば、以下のような点について、可能な範囲で具体的に示していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄、着替え、食事などの日常生活動作の到達目安 ・集団行動への参加状況や指示理解の程度 ・医療的ケアや個別支援の必要度 ・合理的配慮を前提とした場合の判断の考え方 <p>子どもの最善の利益を第一に考え、保護者が納得して進路選択ができるよう、客観的で分かりやすい基準や説明をお願いしたい。</p>	調整中
公共交通 	<p>1. 盲導犬ユーザーの利便性向上について（補助犬トイレの設置）</p> <p>盲導犬ユーザーの利便性向上のため、駅構内または駅周辺に補助犬専用トイレの設置を検討いただきたい。特に、燕三条駅、東三条駅、三条駅において設置してほしい。</p> <p>移動中に安心して排泄させる場所が確保されることは、盲導犬ユーザーにとって重要な環境整備の一つである。誰もが安心して公共交通機関を利用できるよう、配慮をお願いしたい。</p> <p>2. 無人駅におけるインターホン対応の改善について</p> <p>無人駅の券売機や改札口では、現在インターホンによる対応となっているが、聴覚に障がいがある場合、音声のみでのやり取りが困難である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニターを通じた文字表示対応 ・筆談が可能なタブレット端末の設置 ・チャット形式でのやり取りが可能な設備 <p>など、視覚的にやり取りできる仕組みを導入してほしい。</p> <p>3. 遅延・事故発生時の視覚的案内の充実について</p> <p>電車の遅延や突発的な事故等により停車した際、ホームや車内での案内が音声のみの場合、聴覚障がい者は状況を把握することができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電光掲示板によるリアルタイム表示 ・車内モニターでの文字案内 ・緊急時の視覚的情報提供の徹底 <p>など、音声に頼らない情報提供の充実してほしい。</p>	同左 (R7.5月) ※以降継続